

2020～23年の継続試験で、内部黒変症の発生が少ないと評価されました

渡辺交配

予告品種

NX-BY025
キャベツ

宮崎県川南地区は冬でも温暖な気候を生かして野菜や果物の生産が盛んな地域です。近年、川南を含めた冬場のキャベツ生産現場で頭を悩ませている問題の一つが内部黒変症です。一般的には、球の外側から数えて3～5枚目の葉に黒いシミ(黒変)が発生する生理障害で、特に加工業務向け出荷の際にクレームの対象となりやすく、寒さが厳しさを増す年明け～2月どりの品種選択を難しくしています。今回ご紹介する弊社の「NX-BY025」は、同地で2020～23年にかけて行った試験でこの症状の発生が少ない、と評価されました。

おすすめする理由① 内部黒変症の発生が少ない



2023年1月27日撮影

2024年2月27日撮影
(球の外側から葉を3枚取り除いた状態)

2023年1月、2024年2月の球内部の状態
⇒内部黒変症は見られない。

「NX-BY025」は結球が緩やかに進む特性があり、寒さが急激に厳しくなる年明けに球内部に空隙が確保されることで内部黒変症が発生しにくいと考えられる。

おすすめする理由② 2kg超えの球を確保できる



写真内の2つのキャベツ重量はそれぞれ2.7kg、2.3kg。

9月中旬に定植すると、1月下旬頃から急激に球内部の充実が進み、重量は2kgを超える。

【注意点】

1月中は内部充実が進まず重量が乗らない場合があるので、出荷時期には注意が必要。

2023年9月15日定植、2024年1月27日撮影

おすすめする理由③ 揃いがよく、収穫時期のブレが小さい



揃いがよいので、時期柄一斉収穫は難しいものの、収穫時期のブレをより小さくできるのも「NX-BY025」の魅力。

【注意点】

厳寒期どり用品種で外葉が旺盛なため、適正な株間を確保して定植後の生育ムラを抑えることが、揃いをより良くするためのポイント。

2023年12月19日撮影

川南町の加工業務向け栽培は、9月15～25日定植⇒1月下旬～2月収穫が目安です